

【論文】

教員・保育者養成課程学生の 音楽表現活動に関する一考察

——創作活動の事例検討を中心に——

中 野 圭 子

I. はじめに

5 領域は、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」から成り、幼児の発達の側面から捉えられたものである。1956 年に編纂された最初の幼稚園教育要領では、「健康」「社会」「自然」「言語」「音楽リズム」「絵画制作」の 6 領域であったが、1989 年の改定で「音楽リズム」と「絵画制作」が 1 つに統合され、領域「表現」は初めて登場し、現在の 5 領域の形となった。当時の「音楽リズム」の望ましい経験では、「歌を歌う、歌曲を聞く、楽器をひく、動きのリズムで表現する」の 4 点が示されていたこともあり、領域「表現」では、子どもたちの様々な表現活動の中でも、音楽表現、身体表現、造形表現の 3 分野が主に扱われている。2017 年告示の幼稚園教育要領において、領域「表現」の観点は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」と示されている。

小学校の「音楽」は、10 の教科の中の 1 つに位置付けられているが、2017 年告示の小学校学習指導要領の第 6 節において音楽科の指導内容は、従前と同様に『「A 表現」、「B 鑑賞」及び「共通事項」の枠組み』で示されている。「表現」と「鑑賞」は、児童が音楽を経験する 2 つの領域であり、「A 表現」はさらに歌唱、器楽、音楽づくりの 3 つの分野から構成されている。「音楽づくり」は、身の回りのすべての音を使い、広くすべての音楽様式をもとに、子ども自らが音楽をつくる活動を指し、2008 年の改定で「歌唱」「器楽」と並んで取り入れられたものである。表現及び鑑賞の活動を通した音楽科の目標の 1 つには、「(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。」と示されている。

筆者は、教員・保育者養成校で音楽に関連する授業を担当しているが、これらのことから、音楽表現活動は幼児や児童の心身の発達に深く関連していると考ええる。本稿では、様々な音楽表現活動の中から 2022 年度の 2 つの授業で実施した「音楽づくり」と「劇中歌の作曲」の創作活動の事例検討を通して、教員・保育者養成課程の学生に体験してほしい音楽表現活動について考察することを目的とする。吉川 (2019) は、「教員養成大学の学生の「音楽理論・作曲」学習が

目指すものは、音楽を構造的に理解すること、音楽を専門としない学生も「作曲する、作曲した作品を聴く」体験をして、将来学校で「音楽づくり、作曲」を教材として扱うのをハードルと感ぜないようになること、また教室で児童、生徒と向き合ったときに、自信を持って適切なアドバイスができるようになることなどである（p.231）」と述べている。本学の学生も、入学時のピアノ初心者の割合は増加傾向が見られ、音楽経験の少ない学生が音楽づくりをすることに困難さを感じている可能性が考えられる。

中野・中村（2024）は、「保育者養成校の音楽表現活動」のアンケート結果の考察から、教員・保育者を目指す学生は、ピアノや歌を1人で演奏できるだけではなく、伴奏などの他者に向けた演奏も安定してできる技術力、その場に必要ことに気付き対応できる柔軟性、総合的な音楽指導力、表現活動時の実践的な内容を経験する環境なども必要であることを示している。また中野（2023）において、音楽劇の創作活動は、5領域の内容を総合的に体験できる実践的な表現活動であり、体験を通した多くの学びがあると述べている。筆者が実践的な内容の1つであると考えている創作活動の体験を経て、教員や保育者を目指す学生がどのような気付きや学びを得るかを考察し、現場を見据えた音楽表現活動について論じていきたい。

Ⅱ. 研究方法

1. 音楽科指導法の音楽づくり

表1 音楽科指導法の授業計画（2022年度）

回数	授業日	内容
1	9/16	「総合的な学習の時間」と音楽科
2	9/30	音楽科の指導法（歌唱）
3	10/7	音楽科の指導法（合唱）
4	10/14	音楽科の指導法（器楽）
5	10/28	音楽科の指導法（重奏と合奏）
6	11/4	音楽科の指導法（音楽づくり）
7	11/11	音楽科の指導法（鑑賞）
8	11/18	音楽科の指導法（日本の伝統音楽）
9	11/25	音楽科の指導法（諸民族の音楽）
10	12/2	模擬授業①
11	12/9	模擬授業②
12	12/16	模擬授業③
13	1/6	模擬授業④
14	1/13	小学校実習の振り返り（模擬授業の予備日）
15	1/20	半期のまとめ

表2 「音楽づくり」の授業プリント

音楽づくり

- ・身の回りのすべての音を使い、広くすべての音楽様式をもとに、子ども自らが音楽をつくる活動
- ・「A 表現」の3つの活動の中の1つ ※クラシック音楽の語法を超えた、より幅広い活動

音楽づくりの6つの特徴

- ①身の回りのすべての音を素材とする
 - *周囲の様々な音に耳を澄まし、その面白さ多様さに気付くことが音楽づくりの出発点
 - *自分の感性や創造性を駆使し自分の思いを音に託しやすい
 - ②音遊びや即興的な表現が大きな意味をもつ
 - ③一定の枠組み（音楽の仕組み）をもとに作ることで、音楽の構造を理解することにつながる
 - ④1人ではなく、グループで協働して音楽を作ることが多い
 - ⑤拍節的ではないリズムや調性にとらわれない音階などの多様な要素が取り入れられる
 - ⑥我が国の音楽、諸外国の音楽、ポピュラー音楽、現愛音楽など、多様な音楽様式の理解へと繋がる
 - *幅広い音楽的な要素や様式を見渡すとより活動の範囲が広がる
- ⇒多様な音楽を理解し、広い音楽的視野を獲得し、音楽づくりと鑑賞との関わり合いを生む

音楽づくりの実践アイデア例

- ①反復をもとに創作する
 - *ほとんどすべての音楽には何らかの形（旋律やリズムなど）で反復が存在している
- ②呼びかけとこたえを活用する「呼びかけとこたえ」の最も簡単な形・・・模倣（基礎→応用）

例1：教師（1人の子ども）がAというパターン（タンタンタンなど）を手拍子などでつくり、それを全員がまねするというリズムを模倣する

例2:A（タンタンタン）という呼びかけに対し、別の一人がA'（タンタタタン）という少し違った答えを返したり、B（タッカタッカタ）というまったく別のこたえを返す

例3：歌唱教材における模倣「アイアイ」、「森のくまさん」

 - *単純な呼びかけの模倣、対比的なもの、掛け合いとなるものなど非常に幅広く、2つ以上の声部（パート）の様々な役割などの関係性が見られる
 - *子どもたちのつくりだしたものが「音」や「効果音」ととどまらず、構成などを意識した「音楽」になるようにする
 - *音を音楽に構成していくための手だてとなる「音楽の仕組み」に着目した、音楽の本質に迫る音楽づくりへと子どもたちの活動を発展させていく

表1は、2022年度の音楽科指導法授業計画をまとめたもの、表2は、授業時配布のプリントの内容をまとめたものである。音楽科指導法は、小学校教諭免許の必修授業であり、2022年度の履修者は3年生16名であった。15回の授業では、小学校音楽科における表現（歌唱、器楽、音楽づくり）、鑑賞のすべての学習内容や活動の指導法について学習する。9回目までの授業では、それぞれの活動分野について一般的な授業を学習者として体験し、その後、受講者自身が模擬授業を実践する形式を取っている。本稿では、第6回「音楽づくり」を研究対象とする。小学校実習などの公欠もあり、実施日11/4の出席者は10名であった。倫理的配慮として、最初に、

本時の活動は研究に使用する可能性があることを説明した。研究協力については任意であり、協力したくない場合は「不可」と授業プリントに記しておくこと、成績と一切関係がないこと、結果は統計的に処理され、個人が特定されることがないことを説明し、同意を得た上で実施した。

第6回音楽づくりで実施した「5つの音で、せんりつをつくりましょう」は、小学校4年生の教材である。4分の4拍子の決められた2小節リズムに、決められた5つの音（ミソラドレ）から自由に選び、音とリズムを組み合わせていく活動であり、2人1組で実践した。本時の授業の主な流れは、①授業プリントを穴埋めしながら、音楽づくりの概要を学ぶ（20分）、②主活動（旋律作り）の概要説明（5分）、③創作時間（20分）、④リコーダーなどの楽器を使った作曲の発表時間（15分）、⑤授業プリントで感想記入（5分）であった。尚、実践日は消防訓練日であったため短縮授業で計画していた。本研究では、⑤授業プリントの感想内容を、直接およびテキストマイニングで分析し、学生の創作の意図や気づきについて考察する。

2. 児童教育研究（2）の劇中歌の作曲

表3 音楽劇の創作スケジュール

回数	日付	内容	回数	日付	内容
1	4/8	オリエンテーション（物語の作り方）	11	6/24	台本読み合わせ
2	4/15	台本原案作成①	12	7/1	劇中歌の作曲
3	4/22	台本原案作成②	13	7/8	練習①（台本確認・立ち稽古など）
4	5/6	登場人物の性格造形	14	7/14	練習②（合奏・立ち稽古など）
5	5/13	音楽劇の歴史（講義）	15	7/21	練習③（歌・通し練習など）
6	5/20	作曲体験	16	7/26	練習④（合奏・立ち稽古など）
7	5/27	劇中歌の選曲	17	7/27	練習⑤（通し練習など）
8	6/3	製作①	18	8/2	リハーサル
9	6/10	製作②	19	8/8	直前練習
10	6/17	製作③	20	8/9	発表

※2学期の5回（16～20）を夏休み期間に集中講義で実施

表3は、2022年度の児童教育研究（2）で子どものためのオリジナル音楽劇「おかあさん おめでとう」を卒業研究の一環で創作した際のスケジュールである。児童教育研究（2）は卒業必修であり、保育現場の就職を考え、特に音楽表現を研究したい4年生6名が履修していた。倫理的配慮として、初回のオリエンテーション時に、音楽劇の創作過程は研究で使用することを説明し、研究協力については任意であり、成績と一切関係がないこと、研究で使用する際は、個人が特定されることがないことを説明し、全員の同意を得た上で音楽劇の創作を開始した。

約25分の上演時間の中では、重複も含めBGMや劇中歌を23曲使用したが、その内の3曲はそれぞれの場面からイメージし、2人1組で作曲した曲であった。作曲は自分のイメージを音楽で表現する活動である。3年次に絵本からイメージする効果音やBGMを考える活動はしていたが、作曲は多くの学生が初めての経験であったため、自分のイメージを作曲する練習を経て、実

1. 音楽づくりの事例検討

図1 学生記入のワークシート

表 4 音楽づくり体験後の感想

A	実際に 5 つの音から旋律を作ったことで、音の組み合わせにバラつきがあると音の強弱を体感でき、楽しかった。リコーダーで高いレを奏でることの大変さに気づいた。違う楽器で音を組み合わせるのも面白いと思った。
B	自分がリコーダーをどれだけ使えるかということにも着目して、もし苦手なら連続した音を組み合わせたり、音の数を制限するなどの工夫も指導する上で必要になると感じた。
C	5 つのバラバラな音でも、ラカ高いレを最後に置くことでまとまりのある旋律となることに驚いた。何も考えずに、ミソラドレの音を組み合わせるだけで日本風の旋律になるのが面白く、楽しかった。
D	リズムが決まっていることで音を組み合わせるだけで簡単に作れるけれど、人によって違った旋律になることに面白さがあった。児童はリズムを覚えるのが難しいと思うので、その確認に時間を多く取ったり、リコーダーの手を前に掲示するような工夫をしたいと思った。
E	楽しかったけど意外と難しかった。音は決められているけど、どのように 5 つの音を組み合わせれば良いのか困った。
F	ミソラドレの 5 つの音で変わった曲を作りたいと思い、音の離れたものを繋げてしまい、実際に演奏する時にすごく難しく感じた。自らが指導する際は、演奏する時のことも考えて、組み合わせる音を決めるということを伝えたい。
G	どの音を組み合わせてもきれいな旋律になるので、児童でも考えやすいと思った。自分で曲を作るような体験は、楽しく発表する活動にも繋がり、良い学びになると思う。音の組み合わせを考えることが苦手な児童には 3 つ音を選んでもらい、それを順に当てはめるような援助も良いかと思った。
H	ミソラドレの 5 つという限られた音で旋律を作ったので、とても難しかった。4 つのパターンをどのように繋げたらうまくきれいになるのかを考えるのも楽しかったので良かった。改めて作曲家さんとかすごいな、さすがだなと思った。リズムをわかっていないと指導できないので、リズムなどを理解した上で指導していきたい。
I	日本っぽい音がするのは音の組み合わせもありますが、使う楽器も関係するなと思った。私たちは繰り返しを使い、まとまりのある旋律を作ることができたと思うので、楽しかった。
J	音の高さとリズムを組み合わせることの面白さと難しさを感じた。ミソラドレの音だけで日本の旋律を作ることができることに驚いたと共に、児童が楽しみながら音楽への興味や関心に繋げることができた活動内容だと思った。今回の反省や気づきを踏まえ、もし私が実際に指導する際は、リズムを児童にしっかり理解してもらってから旋律を作ってもらいたいと思う。

図 1 は、学生が記入したワークシートである。発表時には、それぞれが創作した 2 パターン（計 4 パターン）を自由に組み合わせ、全 8 小節の曲として、各グループで選択した楽器（リコーダー・木琴・ピアノ）で発表している。表 4 は、「5 つの音で、せんりつをつくみましょう」を体験後の自由記述の感想をまとめたものである。また、この感想を KH Coder を用いてテキストマイニング分析を行った。表 5 は、5 回以上抽出された抽出語をまとめたもので、図 2 は抽出語の共起ネットワーク（最小出現回数 2、表示語数 36）である。

表 5 5 回以上の抽出語と出現回数

抽出語	出現回数
音	22
思う	12
旋律	9
組み合わせる	8
作る	7
楽しい	6
リズム	6
考える	5
指導	5
児童	5
難しい	5

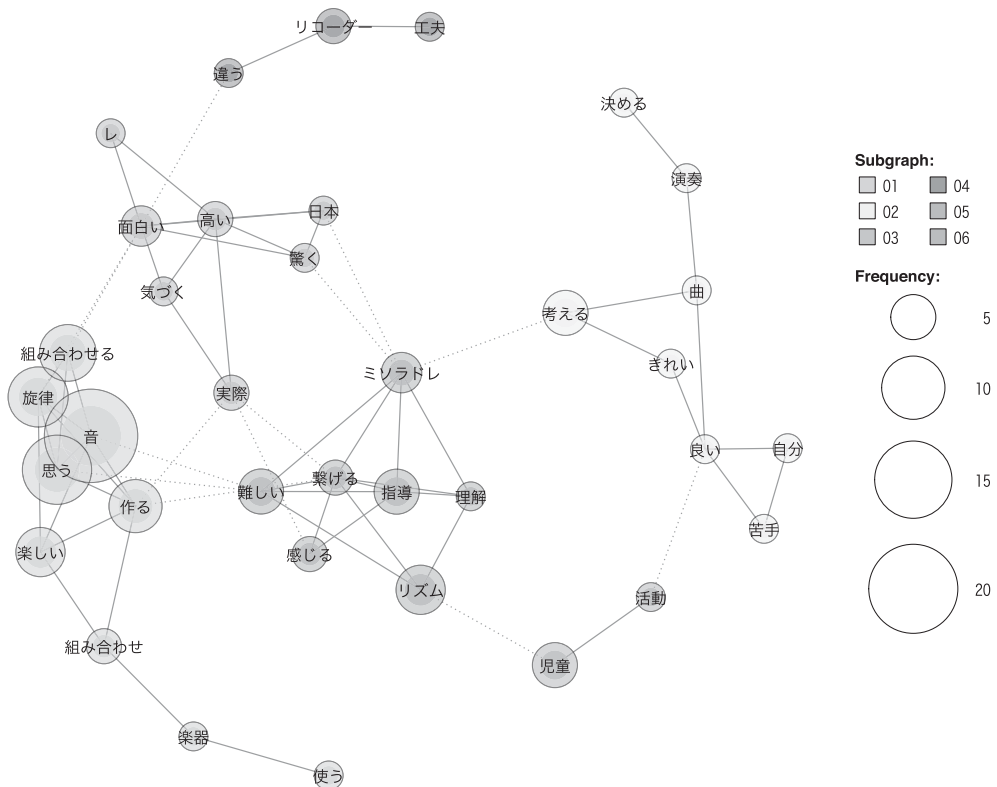


図 2 音楽づくりの感想における抽出語の共起ネットワーク

本活動は、児童がリコーダーで実演することを想定しており、学生 A・B・D・F のようにリコーダーについて言及する「リコーダーで高いレを奏でることの大変さに気づいた。」「自分がリコーダーをどれだけ使えるかということにも着目し、もし苦手なら連続した音を組み合わせたり、音の数を制限するなどの工夫も指導する上で必要になると感じた。」「リコーダーの手（運指法）を前に掲示するような工夫をしたい。」「音の離れたものを繋げてしまい、実際に演奏する時にすごく難しく感じた。自らが指導する際は、演奏する時のことも考えて、組み合わせる音を決

めるということを伝えたい。」などが挙げられており、リコーダーの演奏自体に学生が苦勞したことが推察される。また学生 D・H・J は、リズムに関連して「児童はリズムを覚えるのが難しいと思うので、その確認に時間を多く取りたい。」「リズムをわかっていないと指導できないので、リズムなどを理解した上で指導していきたい。」「もし私が実際に指導する際は、リズムを児童にしっかり理解してもらってから旋律を作ってもらいたいと思う。」を挙げており、リズムの把握にも苦勞したことが推察される。中野ら（2024）のピアノに関するアンケート調査の中で、新しい曲を課題として与えられたとき大変だと感じたことを尋ねたが、約 4 割の学生が音の長さを含めたリズムについて苦手意識を持っているという結果が出ている。活動時の筆者の説明不足を反省する共に、特に小学校教諭を目指す学生は、リコーダーの演奏技術や読譜力の向上などが必要であると考ええる。

次に、全体的傾向を把握するために行ったテキストマイニングの結果である。音楽づくり体験後の感想に関する総抽出語は 686 語であり、分析に使われる語として 263 語が抽出された。その中で 5 回以上抽出された語は、「音」「思う」「旋律」「組み合わせる」「作る」「楽しい」「リズム」「考える」「指導」「児童」「難しい」の 11 語であった。

共起ネットワーク分析を行った結果、6 つのグループに分類された。図 2 より、「音」はグループ内において「思う」「旋律」「組み合わせる」「作る」「楽しい」と共起関係があった。また、「楽しい」と「作る」は「組み合わせ」とも繋がっていることから、音を組み合わせる旋律を作る活動を楽しみと思った学生が多かったことを示していると考えられる。「難しい」は、「ミソラドレ」「繋げる」「指導」「リズム」「音」「思う」「作る」と共起関係にあったが、旋律を作ることを難しいと思った学生と、指導する際の難しさを思った学生がいると推察する。「ミソラドレ」は使用した 5 つの音のことであるが、日本の伝統的な五音音階の 1 つである。「ミソラドレ」は「日本」「驚く」とも共起関係にあり、作った旋律が日本の音楽に聞こえたことを驚いたことがうかがえる。また「楽しい」「面白い」「難しい」「きれい」「よい」などの語から、全体的な傾向として、学生は旋律の創作活動を、難しいと感じながらも、肯定的に捉えていたと考える。

2. 劇中歌の作曲の事例検討

表 6 作曲の説明内容

作曲の進め方（例）

- ①歌詞や曲のイメージ（どんな場面の歌？）から、旋律やリズムを自由に考える
- ②2 拍のリズムモチーフの組み合わせを考え、そのリズムに沿って音の高低を考える
- ③伴奏（コード）進行から旋律を考える

その他の諸注意

- *2 拍のリズムモチーフ例（4 分音符+4 分音符、8 分音符+4 分音符+8 分音符、付点 4 分音符+8 分音符など）
- *歌の場合、実際に歌うことを考え、歌いやすい音域（1 点ド～2 点レぐらい）で組み合わせを考える
- *ハ長調（調号なし、ドで終わる）が作曲しやすい
- *2 小節単位で考え、組み合わせて 8 小節を目指す

表 6 は、学生が作曲を体験する時に説明する内容をまとめたものである。本来は、作曲の 3 つの進め方は学生に選択してもらうが、今回は音楽劇の劇中歌であったため、6 名で歌詞原案を最初に作詞している。表 7 は、音楽劇のあらすじと歌詞のある創作曲との関連をまとめたもの、表 8 は、劇中歌を作曲した感想を 8/9 の発表内容も踏まえてまとめたものである。

表 7 「おかあさん おめでとう」のあらすじと創作曲

場面	登場人物と内容	創作曲
起	姉妹がおかあさんの誕生日会を企画	
第一部 承	森でケーキの材料を集める	
	1. さるくんからバナナをもらう	くだもの ありがとう①
	2. うさぎさんからいちごをもらう	くだもの ありがとう②
	3. 迷っているところを犬さんに助けてもらい、ぶどう畑を教えてもらう	
	4. ねずみさんのお店でスポンジ・生クリームを買い、みかんをもらう	くだもの ありがとう③
第二部 転	練習とケーキ作り	
	1. 合奏練習→2 人でケーキ作り 2. けんか→仲裁で仲直り→完成	ケーキ作りのうた
結	誕生日会	

表 8 作曲体験の感想

学生	作曲の感想
a	音楽で激しさを表現するよりも優しい感謝の気持ちを強くしたかったため、1音ずつ上がったり下がったりする滑らかな曲にした。「ケーキを作ろう!」というような意気込みも欲しかったため、少し早いテンポにし、頭により残りやすいように考えた。最初は少し違和感があったが、歌い続けるとより自分の曲に愛着が湧いてきた。
b	最初はどのようなリズムにするのが良いのかということに悩んだが、リズムを先に決めその後に音や歌詞を入れて音楽を作成していくととてもスムーズに作ることができた。ありがたい気持ちと美味しいケーキを作ろうという思いで考えたが、自分たちで1から作ったためとても達成感を感じることができた。
c	「ケーキ作りのうた」では、それぞれの材料を入れる歌詞にし、楽しくケーキ作りしている様子が伝わるような曲にした。曲作りは、何調にするか、リズムはどんなものを使うかなど細かく考え、リズムを歌詞にも合わせる必要があるので難しいと感じた。曲を作っていく中でぴったり合った時は嬉しかったし、この劇に合っている曲が作曲できたと思った。
d	音楽を作る中で、伝えたい言葉と音符のリズムを合わせることに一番苦労した。8小節の音楽を作曲したが、その限られた区間の中で伝えたいことを詰め込むのに時間がかかった。「生クリーム」だけでも6文字あるため、1小節にまとめようとするとリズムが限られてくるため、気に入ったリズムにするのが難しかった。ケーキを作る時の歌は、ケーキ作りの過程を子どもが見てわかるようにしたかったため、生クリームを絞ったり、果物を乗せることを歌にし、さらに少しでも参加したいと思えるように掛け合いをいれた歌にした。その掛け合いは、子どもが参加できるように考えたが、集中している時にいきなり掛け合いが始まるとなかなか参加できないのではと考え、動物たちとの掛け合いとして表現した。最終的には満足できる曲ができて良かった。

(1) 「くだもの ありがとう」の作曲過程

譜例1は、誕生日ケーキの材料であるくだものを、動物たちからもらった後にお礼で歌う「くだもの ありがとう」の完成譜である。表7に、くだものありがとう①～③と記しているが、3場面で歌ったため、下線部のように動物とくだものの組み合わせは替えて使用した。

譜例2は、作曲途中の「くだもの ありがとう」の楽譜である。この曲を作曲した学生a・bは、「自分たちには作曲は無理」と言っていたため、歌詞に合う2拍のリズムモチーフを最初は一緒に考え、その後、音の高低を組み合わせて旋律を作っていた。

譜例1 「くだもの ありがとう」の完成譜

譜例2 作曲途中の「くだもの ありがとう」の楽譜

1音目をどの音から始めるかを悩んでいたが、上にも下にも音が動けるように、1点ハから2点ハマまでの1オクターブの真ん中の音である「1点ト」の音を起点と決めた。1・2小節目では「1点ト」から「1点二」まで4度の順次下行進行後、「1点二」から「1点ヘ」まで3度の順次上行進行し、2小節目最後の音である「1点ヘ」の音から3小節目が始まっている。2小節目と4小節目の歌詞は同一の「ありがとう」であることもあり、1・2小節目と3・4小節目は、起点の音は「1点ト」と「1点ヘ」で異なるが、ほぼ同じ順次進行が使われている。また最終的には、1・2小節目と3・4小節目は同じリズムになっているが、最初の段階では、3小節目の歌詞にバナナのあとに「を」が付いていたため、譜例1・2では差異が見られる。

後半の5・6小節目では、特徴的なリズムを選択した。最初は4文字の「フルーツ」と6文字

の「生クリーム」の歌詞を2拍に均等に当てはめていたが、早口にはなるが1拍に入れ込んで試唱したところ、非常に語呂が良く、旋律に躍動感が生まれたため、16分音符や半拍3連が採用された。7・8小節目は曲のまとめの部分であるが、「1点ト」から4度の順次上行進行でこの曲の最高音である「2点ハ」で終わっている。作曲時に「優しい曲だけど、最後は盛り上がりて終わりたい」と話していたため、高揚感が表現されているのではないだろうか。全体的に4拍目に4分休符が活用されていることも特徴だと言えるだろう。順次進行のみで穏やかな曲に仕上がったと考える。表8のa・bの感想からも、前半4小節は感謝の気持ち、後半4小節はケーキ作りの意気込みをイメージし、意図的にイメージに合うような音やリズムを選択していったことが推察される。

(2) 「ケーキ作りのうた」の作曲過程

譜例3 「ケーキ作りのうた」の完成譜

Piano

ス ポ ン シ ー に な ま ク リ ー ム (ほ) ？ い ち ず (いちず)

Pno.

の せ ？ 3rd (3rd) ？ (3rd) ？ せ - ん ？ の せ ？

Pno.

ッ ル - ツ ケ - キ の て き あ が り !

譜例3は、ケーキの製作過程を歌った「ケーキ作りのうた」の完成譜、図3は、作曲中の歌詞の変遷メモである。図3から、2小節毎に歌詞を区切り、リズムや歌詞の微調整をしていったことが読み取れる。この曲を作曲した学生c・dは、「元気で楽しい曲を作りたい」と作曲していたが、最初の歌詞原案からニュアンスは変えずに、自分たちの持つ曲のイメージを踏まえ、歌いやすく伝わりやすい歌詞に少しずつ調整していったのではないだろうか。

IV. おわりに

音楽づくりを体験した10名の感想からテキストマイニング分析を行ったが、分析データ量が少なかったと考える。対象人数を増やすなどして、総データ量の確保を今後の課題としたい。図2から、学習者としては、日本音階の特徴や、音の組み合わせを考え旋律を作ることの楽しさなどを、指導者としては、指導する際の不安などが読み取ることができた。また感想や共起関係から、全体的な傾向として、学生は旋律の創作活動を肯定的に捉え、楽しさや面白さを実感していたと考える。

劇中歌の作曲は、短時間での創作だったため伴奏付けまではできなかった。今後、作曲体験をする際は、もう少し時間を確保し、旋律に合った和音や伴奏形の検討まで行いたい。作曲過程では、それぞれの持つイメージを少しずつ形にしていく様子や、リズムや旋律のこだわりや意図的な表現上の工夫が見られた。また表8の感想から、試行錯誤を経て自分たちがイメージした表現したいものが、創作曲という目に見える成果で表れたことが達成感に繋がったと考える。

2つの事例の感想から、学習者としての反省や、実践したからこそその気づきが多く見られた。また、その気づきをもとに、子ども（観客）側の視点や指導側の視点が見られたことは、実践的な表現活動を通した学びの1つであり、学生の今後の課題発見や改善案の検討に繋がると考える。また楽しさや達成感があったことで、創作活動を子どもや児童とも積極的に行うことができるだろう。

音楽を専門としていない教員・保育者養成課程の学生にとって、音楽の創作活動はハードルが高いと考えるかもしれないが、音楽はリズムと旋律で構成されており、それぞれを組み合わせることでも創作活動は成立し、音楽が苦手な学生でも取り組みやすい活動の1つであると考え。[5つの音で、せんりつをつくりましょう]ではリズムは決められていたが、劇中歌の作曲では、歌詞原案を基にリズムを考えている。1から自分たちで考える場合でも、歌詞という制限があったことで、リズムの候補を絞りやすかったのではないだろうか。また旋律に関しても、5つの音（1点ホ・1点ト・1点イ・2点ハ・2点ニ）もしくは歌いやすい音域（1点ハ～2点ニ）を選択肢として作っていったが、限られた音からでも前後の音との高低差を選んでいくことで、容易に旋律になることを体感できたのではないだろうか。

本研究で取り上げた2つの事例では、2人1組で創作活動を行った。創作時に意見交換をしながら2名で創作していったため、学生の積極的な活動参加が見られた。前述の幼稚園教育要領の領域「表現」の観点と、小学校学習指導要領の表現及び鑑賞の活動を通した音楽科の目標を、学習者として体験できたと考える。また学習者として体験した際の反省点などは、教員・保育者となり、指導者として子どもや児童に指導する際の配慮事項などにも繋がるだろう。5領域の「表現」と小学校音楽科の「A表現」の領域で共通して、子どもや児童に、まず音や音楽を楽しんでほしいと考える。そのためには、教員や保育者を指す学生自身も色々な音や音楽と関わり、

表現活動の実体験を通して自分の感性や創造性、音楽に親しむ態度などを育てていってほしい。最初は難しいと感じる内容であっても、段階を踏むことで、活動の楽しさや活動後の達成感を得ることは可能であると考え。今後も、学生が楽しみながら主体的に参加できる音楽表現活動を実践していきたい。

引用・参考文献

- 初等科音楽研究会（2020）『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017 年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』音楽之友社.
- 中野圭子（2023）「保育者養成校における総合的な表現活動に関する一考察－領域「表現」から考える創作音楽劇の意義－」『園田学園女子大学論文集』第 57 号, pp.53-62.
- 中野圭子・中村愛（2024）「教員・保育者養成に求められる音楽表現に関する研究－ピアノと歌唱に関するアンケート調査を中心に－」『園田学園女子大学論文集』第 58 号, pp.46-56.
- 文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）』東洋館出版社.
- 文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』フレーベル館.
- 吉川和夫（2019）「教員をめざす学生のための「音楽理論・作曲」学習」『宮城教育大学紀要』第 54 巻, pp.231-242.

〔なかの けいこ 音楽教育学〕